

アパトナーPR車

SUN 通信の創刊にあたり



NPO 法人サンレジデンスは、札幌市（行政）及びアパトナー（企業）を協働の相手と認め、行政企業の補完的な役割としてではなく自律性や自立性を保ちながら対等な立場で関わり互いの目的「人の幸せを考える」を共有しています。

企業が NPO に住まい確保（居室紹介）や寄付車両（使用無償レンタル）等助成し、ビジネスと社会貢献が戦略的な関係性を持ちながら NPO 活動に参加・従業員派遣、手伝い等経済的価値と社会的価値の両立を意識して事業活動をしています。

「共有価値の創造」 社会問題を事業と切り離して見るのではなく、事業戦略と一体のものとして扱うことで、NPO と企業との社会貢献は”機会・CHANCE 今を未来にする “として捉えています。

NPO 法人自立支援事業所サンレジデンスは株式会社アパトナーとタッグを組んで事業活動を行っています。

地域社会にあって「共通の社会的な目的」

- ◆アパトナー：「社員の幸せを考える会社」
- ◆NPO サンレジデンス：「人間はみな幸せになる権利がある」

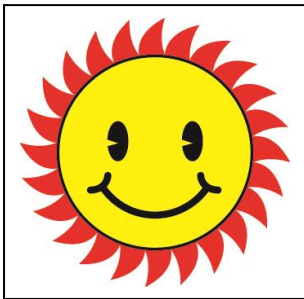
あらゆる意味で排除、抑圧されている人に寄り添うこと、もっと開かれた社会のあり方に関心を高め、そして働くことに幸せを求め、幸せを感じての生き方を共有しながら活動・協働して参ります。

2015年3月1日

スタッフ

代表理事	照井 幹雄
所長代理	飯高喜久男
副所長	松下 和広
職員	寺門 忍
職員	櫻井 大輔





NPO 法人 自立支援事業所 サンレジデンス

SUN 通信 第1号

2015、3、1、 発行



NPO法人 自立支援事業所 サンレジデンスとは

2010年（平成22年）8月、高齢者の住宅、生活支援を目的に株式会社サンレジデンスが設立されました。その後、北海道にも多くのホームレスや生活困窮者（ネットカフェ難民などの見えないホームレスを含む）がいることを知ることになり、このような方々に対して住む場所の確保、生活のケア、就労支援など、社会復帰に向けての支援活動を行うこととなりました。

この社会的活動を継続的に行うため、2014年（平成26年）4月、NPO法人設立の申請を行い、同年7月1日に「特定非営利活動法人 自立支援事業所 サンレジデンス」として生まれ変わりました。

様々な事情によって地域社会からはみ出してしまった当事者には、一時しのぎのシェルターなどではなく、安心して居宅生活できる場所の提供を行うことはもちろん、福祉、役所、他NPO団体とも連携し、当人のニーズに合った細やかなケアが必要です。

現在までにおよそ200名の方々を受け入れ、20名以上が自立し、社会復帰を果たしていますが、貧富の格差が広がっている日本の社会を象徴するかのよう、サンレジデンスを訪れる相談者が後を絶ちません。

働く意欲はあるのに職につけない人が増加しています。同時に、就労人口のおよそ3分の1が不安定な非正規雇用という現状において、生活保護費よりも低い賃金で働かざるを得ない人たちが世の中に溢れています。

また、この活動を通じて強く感じるのが、家族を含む人間関係の希薄な人たちの多さです。本来であれば、困ったときに防波堤となってくれるべき家族との関



生活の基盤となる物件の一例

係が完全に崩壊しているケースはもとより、助けてあげたくてもその家族自体が困窮しているケースも少なくありません。さらに、潜在的な障害（知的障害、発達障害等）が見逃され、一般的な社会生活のなかでは人間関係がうまくとれず、苦しんでいる人たちも多くいます。

今この国は、一度社会からはみ出してしまうと二度と戻れない、失敗が許されないような仕組みになっている気がしてなりません。「NPO法人 サンレジデンス」は、「人間はみな幸せになる権利がある」を信条としています。諸々の理由によって一度挫折し、仕事や住まいを失ってしまった人が、もう一度社会復帰できるよう支援を続けるのはもちろん、この活動を通じて「NPO法人 サンレジデンス」の存在そのものが、社会に対するメッセージとなるよう活動を続けていきます。



※サンレジデンス管理物件と支援状況（2015・2・10現在）

	物件名	場所	戸数	入居	入居者男女別
1	AH北16条II	札幌市東区	2	0	
2	AH北19条	札幌市東区	7	5	男性5名
3	AH北23条II	札幌市東区	7	7	男性6名、女性1名
4	AH北23条V	札幌市東区	9	9	男性8名、女性1名
5	AH北27条II	札幌市東区	8	5	男性4名、女性1名
6	AH北28条	札幌市東区	4	3	男性3名
7	AH北28条II	札幌市東区	11	11	男性9名、女性1名
8	AH北30条II	札幌市東区	5	4	男性4名
9	AH北35条II	札幌市東区	6	6	男性6名
10	AH北39条	札幌市東区	10	8	男性7名、女性1名
11	大昭ビル	札幌市東区	1	1	1家族
12	AH北34条III	札幌市北区	5	5	男性5名
13	サクシーズ中の島	札幌市豊平区	18	16	男性16名
14	プレステージ	札幌市豊平区	3	3	女性2名、1家族
15	AH月寒III	札幌市豊平区	4	3	男性3名
16	ストーンヒル本郷	札幌市白石区	5	4	男性3名、1家族
17	パレスコート5	札幌市白石区	7	1	男性1名
合計			112	91	男81、女7、家族3

北海道におけるホームレス事情

2月に入り、札幌の街は「さっぽろ雪祭り」でにぎわっています。しかし、華やかなお祭りのこの時期こそ、ホームレスにとっては最も過酷な季節です。北海道外で生活されている方は、雪が多くて寒い北海道には、路上生活者などいないだろうと、漠然と



雪祭りの時期は彼らにとって過酷な季節

の方が多いのではないでしょうか。日中でも気温がプラスに届かない真冬が続く土地で、住む場所のない人がどう過ごしているのかなど、想像もできないと思います。ところが札幌には驚くほど多くのホームレスがいます。中には、20年以上も路上生活を続けている猛者もいます。

この活動を続けていて気がついたのは、札幌という街はホームレスにとっても冷たいという事です。東京の山谷や大阪の西成のような規模ではないにしろ、札幌にも一時期（約15年ほど前）、JRの高架下にホームレスたちのテント村のようなものがありました。しかしその後、市の排除命令によって居場所を失った彼らは、市内各地に散らばっていきました。厚生労働省と道の調査によると、毎年少しずつではあるがホームレスの数は減っていると発表していますが、それはあくまでも目視での調査にすぎず、信憑性はありません。札幌の路上生活者は、一見ホームレスには見えない身なりをしている人たちが非常に多いという事実があります。炊き出しの会場で古着をもらったり、駅のトイレで毎朝ひげを剃ってなるべくホームレスに見えない努力をしています。なぜなら日中、公共施設や商業施設等で体を休めているときでも、ホームレスと分かると警備員や店員に追い出されてしまうからです。

また、深夜12時から朝5時30分の間、札幌駅と地下街が閉鎖されます。この間彼ら



冬の札幌駅、-10度を超える日もある

は、24時間営業の商業施設やコンビニエンスストア等で時間を潰しますが、やはり一箇所に長居することはできません。中には、地下街が開く時間まで、札幌の街をただひたすら歩き続ける人たちもいます。もちろん凍死を恐れての行動です。

そんな過酷で絶望的な状況でも、それが長く続くと「日常」になってしまい、希望に対する欲求が枯渇していくのかもしれない。

ホームレスになるのは自己責任であるとい

う人もいますが、そんな単純なことではありません。北海道の有効求人倍率は全国最低レベルです。そんな状況の中で病気やリストラ等で失職し家賃を払えなくなり、頼る人もいない……。誰にでも起こりうることではないでしょうか。

支援にあたって大切なこと

私たちの活動は、単に生活保護を受け、住居を確保するだけではなく、最終的に当事者が社会復帰し、生きる力を回復してもらうことを目的としています。その為にはまず最初に、当事者が過ごしてきた生活歴、家族関係、学歴、職歴、健康状態、犯罪歴、現在どうしてこのような状況になってしまったのか、そして今後どうしていきたいのか等、きめ細やかな情報を聞き出すことです。一人ひとり事情や能力、ニーズが違いますから、本人に適した自立への方向性を、私たちと当事者がお互いに納得して支援を開始することが重要です。次に大切なのが、生活リズムと、他者との関係の回復です。前述したとおり、一度路上生活を経験すると、昼夜逆転の生活リズムが染み付いてしまいます。このような人たちにはなるべく朝食を提供するようにし、日中に活動するリズムを取り戻してもらう為の動機付けとしています。また、そんな生活が続いた為に、他者との関わりが極端に少なくなっている人も少なくありません。

昨年10月、入居者たちとのレクリエーションとして、パークゴルフ大会を開催しました。日ごろ部屋にこもりがちな入居者が晴天の中、笑顔で楽しそうにしている姿を見て、私たちスタッフも嬉しくなりました。ささやかですが、このような機会をきっかけに少しずつ、人とのつながりを取り戻してくれたらと願ってやみません。第2回大会は今年6月を予定しています。



入居者とのレクリエーションの様子

ホームレス、生活困窮者の形態がここ数年変化しています。若い世代の困窮者が激増しています。女性や家族単位のホームレスも増えています。私たちはそんな変化にも対応し、今本当に困っている人たちを応援していきたいと思います。「SUN通信」第1号を発行するにあたり、皆様にサンレジデンスの活動に興味を持っていただき、ご賛同いただければ幸いです。松下和広

NPO法人 自立支援事業所 サンレジデンス

〒001-0023 札幌市北区北23条西5丁目1-18DIO23ビル3F

TEL 011-746-8889

FAX 011-299-3107